うつのみや 歴史民俗紀行 第14回

前田慶次と宇都宮の商人庭林

栃木県立博物館 学芸員 飯塚 真史

前田慶次は安土桃山時代の武将で、織田信長の重臣前田利家の兄利久の養子だった縁で利家に仕えていたが、天正十八（一五九〇）年に出奔し、後に会津の上杉景勝に仕えたとされる。慶長五（一六〇〇）年の奥羽最大の激戦長谷堂合戦では、慶次が最上義光軍を相手に奮闘したといわれる。一方で、かぶき者として知られ、その印象が強いが、漢詩や連歌に優れた文化人でもあった。

慶次は慶長六（一六〇一）年十月二十四日に伏見（京都府）を出発し、十一月十九日に米沢に到着している。道中の様子を自ら記した日記が『前田慶次道中日記』（市立米沢図書館蔵）である。それによると、伏見から中山道を経由して例幣使道へ、十一月九日に新田（群馬県太田市）から下野国内へ入り、八木（足利市）、犬伏（佐野市）、栃木、壬生を通り、宇都宮に至る。宇都宮からは奥州道中を進み、氏家（さくら市）、喜連川（さくら市）、佐久山（大田原市）、大田原、鍋掛（那須塩原市）、芦野（那須町）を通り、十四日に白河（福島県白河市）に至っている。

慶次は宇都宮に十一月十日に到達している。その際の記述には「ウつの宮に付き、予が旧友庭林と云うものあり、彼宅にて酒くれて、ふろたかす」とある。慶次が旧友庭林の屋敷に宿泊し、酒を酌み交わし、旧交を温めている様子が記されている。

翌日、慶次が宇都宮を出発する際には、庭林から鷹と子犬を贈られている。文中で慶次は庭林のことを「旧友」「いにしへの友」と表現していることから、二人には古くから親交があったことがうかがわれる。

庭林は宇都宮を本拠とする宮商人で、商人司（その地域の指導的役割を果たす商人）であった。当時の生活必需品である蝋燭を商っていた庭林は、関東を中心に商業ルートを形成していた。そうした中で庭林は、他国の商人だけでなく、多くの武士ともつながりがあったものと推測される。慶次もその一人と考えられる。

慶次が訪れた宇都宮は、一年前には慶次の属した上杉軍に対する徳川軍の重要拠点であった。その宇都宮で慶次は旧友庭林と酒を酌み交わし、どのような話題で盛り上がったのか、興味深いところである。

図 前田慶次道中日記行程図

市立米沢図書館 2006『前田慶次道中日記 資料編』附図を参考に作成

相談随時 案内進呈
あなたの本づくりをお手伝いします。
一冊のぬくもりを大切にしたい。
これが私たちの編集コンセプトです。
図書出版・企画・編集・制作
36th SINCE 1985
随想舎
〒320-0033 栃木県宇都宮市本町10-3 TSビル
まずはお電話を ☎028-616-6605
http://www.zuisousha.co.jp
総務・営業部 1F TEL.028-616-6605 FAX.028-616-6607 編集・制作部 2F TEL.028-616-6606 FAX.028-616-6608 e-mail: info@zuisousha.co.jp